

# 茨木市立豊川中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

## 【今年度の結果と取組みについて】

### ○●国語●○

(領域ごと)	
①話すこと・聞くこと	課題が残る結果であった。
②書くこと	やや課題が残る結果であった。
③読むこと	課題が残る結果であった。
④言語事項	概ね良好な結果であった。
(問題形式)	
①選択式	やや課題が残る結果であった。
②短答式	やや課題が残る結果であった。
③記述式	課題が残る結果であった。
(無解答率)	概ね良好な結果であった
(その他)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>学校の特徴的なことについて記入</p><ul style="list-style-type: none"><li>・もっとも正答率の高かった設問・・・1二</li><li>・もっとも正答率の低かった設問・・・3四</li><li>・もっとも無解答率の高かった設問・・・3四</li><li>・もっとも無解答率の低かった設問など・・・1一、1二、2一</li></ul></div>

#### 分析(正答率が低い設問を取り上げた)

3四・・・吾輩が黒をどのように評価し、どのような接し方をしているのか。それに対して自身がどのように評価するのかを解答する設問。ただし、本文の表現を引用するとともに自身の考えを具体的に書くという2つの条件が設定されている。

近代文学のため、馴染みのない語彙が多く、読解の負担が大きく、解答方法に複数の条件が設定されているため、解答のハードルが高かったと考えられる。さらに、引用箇所には複数の正答があったため、より「最善」の箇所を検討することに時間を費やしたり、「具体的に書く」という条件で悩んだりしたと思われる。府の学力検査等とは異なる形式であった。

日々の授業において、長文や論理的な文章を読む機会をつくるとともに、テキストをふまえて考えを述べる習慣をつくる。多様な解答が認められることを知るとともに、短文を複数書く経験を蓄積し、よりよい文章を書けるようにしていく。

## ○●数学●○

### (領域ごと)

- |        |                |
|--------|----------------|
| ①数と式   | 課題が残る結果であった    |
| ②図形    | 課題が残る結果であった    |
| ③関数    | 課題が残る結果であった。   |
| ④資料の活用 | やや課題が残る結果であった。 |

### (問題形式)

- |      |              |
|------|--------------|
| ①選択式 | 課題が残る結果であった。 |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった。 |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった。 |

(無解答率) やや課題が残る結果であった。

### (その他)

#### 学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問・・・7(1)
- ・もっとも正答率の低かった設問・・・8(3)
- ・もっとも無解答率の高かった設問・・・9(3)
- ・もっとも無解答率の低かった設問など・・・1、5、8(2)

### 分析(正答率が低い問題をとりあげた)

8(3)・・・数日間にわたる最高・最低気温、日較差、日照時間、最大風速、降水量の表に基づく気温差の表から作成された気温差の度数分布表に基づいた2つの「気温差の度数分布多角形」の特徴を比較し、主張の理由を説明する設問。

問題は A4用紙4頁にわたる。キャンプに行くという日常生活を考察する形式をとりつつも、調査項目が身近ではなく、文章量が多かった。設問のうち、解答に必要な箇所は限られてくるが、情報量の多さから困難だったと思われる。また、日々の授業において演習を行い、習慣化して問題を解くことはできるが、答えとなる数値を求めるのではなく、数学的な概念の理解を求める設問に対する経験が不足していたと考えられる。

日々の授業において、情報量が多くても、必要箇所を見つけることや見た目から受ける印象よりも実際は易しい問題があることに気付く経験を積む必要がある。数学的な概念や定義については意味を丸暗記するのではなく、具体例とともに理解できるようにする。条件について1つずつでよいので、解答を記述し、文章を書く経験を積んでいく。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

年度ごとの変化はあるものの全体として正答率は上昇傾向にある。ただ、本年度は前回と比べ正答率が下降した。授業規律が確立され、落ち着いて学習に取り組んでいるが、質問紙調査と正答率・無解答率からは、全国的な課題と同様で、複数の条件設定の下、記述（文章で説明）することに課題が見られる。また、学校外での学習習慣の定着にも課題が見られる。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

年度ごとの変化はあるものの高位層は増加、低位層は減少傾向にある。ただ、本年度は前回と比べ、逆の結果となった。感染症拡大に伴い、校区で取り組む協同的な学びが制限された結果、高位層は学び直し（理解の定着）、低位層は理解の機会が制限されたことが影響している。積み重ねの教科だけに、質問紙調査からは2年次の臨時休校が尾を引いたことも推測される。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

#### ①授業研究の推進

校区の2小1中で、授業づくりの視点を共有し、互いの授業を参観するとともに、授業づくり研究会の事前練り上げや事後協議、外部講師による講評・講演を実施している。授業研究会は例年5回実施しているが、感染症拡大時には、オンライン参観や録画授業の視聴など可能な範囲で実施している。

校区で協同的な学びを実施している。生徒同士が対話することにより、思考が活性化するとともに、多様な考え方を知ること、自身の考えが深まる。しかし、感染症対策のため、座席配置やグループ活動が制限されているため、協同的な学びが以前より困難になっている。

校内では、教職員が互いの授業を参観したり、学年教職員が録画した授業を学年教職員が揃って視聴したりすることを通して、授業改善を進めている。また、ユニバーサルデザインに基づくチェックシートを実施し、自身の授業を振り返っている。

#### ②学習習慣定着のとりくみ

学習の手引き（各教科の学習および評価方法）と学習（自主勉強）ノートを配布している。後者は、提出者に学習方法の助言や努力に対するフィードバックを行っている。

朝読書、昼学習会、テスト期間の放課後学習会、長期休業中の学習会を開催し、学習の支援や習慣の定着を図っている。

テスト2週間前に、テスト範囲と提出物の一覧を配布し、生徒の計画的な学習を支援するとともに、豊川中学校メールマガジンで配信し、保護者の方のご協力もお願いしている。また、学年の状況に応じて、提出物確認表やテスト計画・実行状況表などを作成、学習プリントの配布、プレテストなどを行っている。

#### ③授業における支援体制の確立

国語・数学・英語を中心として、習熟度別授業、少人数授業、チームティーチング・学習サポーターの活用など丁寧に生徒の様子を確認し、支援できる体制づくりを行っている。

#### ④テスト・アンケートの分析

第1・2学年の年度初めに、国語・数学の確認テストを実施し、生徒の学習状況を確認している。また、各授業者が1・2学期末において、授業アンケートを行い、生徒の思いをもとに、自身の授業を分析し、授業づくりの方針を検討している。また、全国学力・学習状況調査において、特に課題の見られた設問について、教職員を3つのグループに分けて、原因や手立てを協議している。

なお、質問紙調査においては、わからなかったときに「自分で調べる」、「友達にきく」という回答が全国的な傾向より多かった。講義形式ではなく、校区における協同的な学びの取り組みがある程度定着していると感じられる回答傾向であった。